

経験を生かして、いい仕事がしたい 「5年雇い止め」制度をなくして!

高槻市非常勤・パート労働組合



左から堀井沙織里さん（書記長）、撫養千里さん（委員長）、小林真奈美さん（副委員長）

「仕事に責任がない」と言われ、くやしき思いを

「こんなこと、民間ではありえないって、友だちに言われたんです。『5年も働いて経験を積めば、正職になれるんじゃないの?』って…」と語る堀井さん。高槻市では、国保や市民課の窓口サービスに従事する非常勤職員は、どんなに経験や知識を身につけても、5年働けば自動的に「雇い止め」にされてしまいます。この3月末で5年目を迎える非常勤職員も全員が「雇い止め」の対象に。「この仕事が終わったら、路頭に迷う」と言う母子家庭の人もいます。「所懸命働いて、やっと市民にありがとうと言ってもらえた」「経験を生かして、いい仕事したい」と、ほとんどの非常勤職員が働き続けたい気持ちを持っています。4～5年も働けば、後から入ってきた若い正規職員に仕事を教えることも少なくありません。仕事の味も正規職員との区

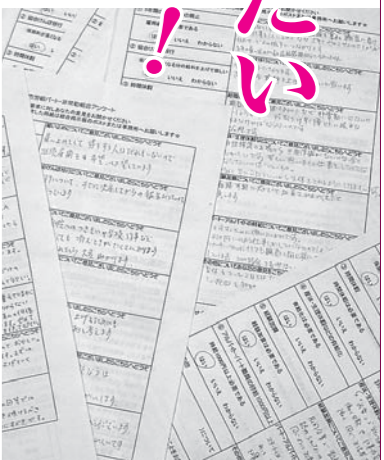
別がつかなくなっています。「なのに、交渉で当局から『あなたたち非常勤には仕事の責任がない』と言われたんです。本当にショックでした!」と小林さんはくやしさをにじませます。

いろんな人の力があって
いまの労働条件がある

「働き始めてから、自分の知らないうちに夏季休暇や育児休暇ができた、待遇が少しずつよくなっていることに気づいたんです」と撫養さん。労働組合が頑張ってくれていたことを後から知り、「自分もタダ乗りしてはダメ」と思っ

て組合に加入しました。

「子どもを産む時期で、雇用に差別があるなんておかしい!」と感じていた堀井さん。一昨年、任用の更新時期（4月1日）が、たまたま産休期間にあたる非常勤職員が、勤続1年目なのに「雇い止め」にされそうになりました。高槻市労組が交渉し、雇用の継続できるように制度を改善させた姿を



アンケートには不満や要求がびっしり

見て、「いろんな人の力があって、いまの労働条件があるんだ」と気づき、組合への加入を決めました。昨年の団体交渉では、職場をまわって非常勤アンケートを実施。「ぜひ書かせて!」と、組合員でない人もふくめ65人が回答しました。雇用の不安や低賃金への不満がびっしりと書き込まれていました。寄せられた声は、すべて組合ニュースで職場に知らせ、団体交渉でも思いを直接ぶつけました。アルバイトの時給が10数年ぶりに引き上がるなど、改善も勝ちとっています。

「雇用の不安がなくなれば、仕事のモチベーションはもつと上がります」と小林さんは言います。「声をあげなければ労働条件はもっと悪くなる。職場に見える組合活動を進めたい」と堀井さん。撫養さんも「私たちには間に合わないかもしれないが、次の人たちのためにも、ぜひ『5年雇い止め』の制度を変えたい」と決意を語ってくれました。

橋下知事は
府民・職員
いじめをやめろ

2011年春闘

力をあわせて変えよう!

政治とくらし

大企業は
社会的責任を
果たせ!



雇用とくらしを守れ!
普天間基地返還! 日米同盟強化反対!

「普天間基地返還! 日米同盟強化反対!」

大阪府民のくらし、雇用は全国でも最悪。一方で大企業は内部留保を増やし、大阪に本社がある資本金100億円以上の企業は25兆円を超える内部留保をため込んでいます。管内閣は消費税増税をうちだし、橋下知事は、府民施策を切り捨て、職員の賃金を大幅に切り下げています。2011年春闘も本番。くらしと政治を変えるために、職場から、地域から怒りの声をあげましょう。